

感染症発生動向調査委員会報告 2月

《今月のトピックス》

- インフルエンザ(B型が主流)が流行しています。
- 麻しんの海外輸入例が首都圏で増加しています。

全数把握疾患 2月期に報告された全数把握疾患

レジオネラ症	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
クロイツフェルト・ヤコブ病	2件	風しん	8件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件	麻しん	2件

＜レジオネラ症＞肺炎型1件の報告がありました。水系感染が推定されています。

＜アメーバ赤痢＞2件の報告があり、うち1件は腸管アメーバ症で国内での感染が推定されていますが感染経路等不明、もう1件は腸管外アメーバ症(肝膿瘍)で、感染経路感染地域等不明でした。

＜クロイツフェルト・ヤコブ病＞2件の古典型CJDの報告があり、どちらも診断の確実度はほぼ確実です。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者2件の報告があり、どちらも同性間性的接触による感染が推定されていますが、感染地域等は不明です。

＜侵襲性インフルエンザ菌感染症＞80歳代女性1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。肺炎が認められ、血清型は型別不能でした。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞3件(90歳代女性、80歳代男性、乳児)の報告がありました。そのうち、乳児1件(血清型検査中)はワクチン接種歴が4回ありましたが、90歳代女性(血清型6型)と80歳代男性(血清型11型)はワクチン接種歴が確認できませんでした。予防にはワクチン接種が重要です。

＜風しん＞8件(男性3件、女性5件)の報告がありました。予防接種歴が1回確認されたのは女性2名(どちらも臨床診断例)で、他は予防接種歴が確認できませんでした。風しんは従来2月～3月の早春から初夏頃が流行時期なので今後の注意が必要です。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。予防接種の助成が実施(3月末まで)されています。先天性風しん症候群の発生には、妊婦が風しんに罹患してから出産するまでの期間のずれがあるので注意が必要です。

◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(保健所)

＜麻しん＞2件の報告がありました。1件は乳児(ワクチン接種歴無し)で、海外渡航歴や海外での感染者との接触はありませんでしたが、遺伝子型でB3(海外由来の麻しんウイルスのタイプ)が検出されています。もう1件は20歳代女性(ワクチン接種歴不明)で、現在PCR等検査中です。現在フィリピンなどでは麻しんが流行しており、海外からの輸入例が、特に首都圏で増えています。海外渡航歴や海外の人との接触が考えられる患者の診察では留意が必要です。さらに、国内発生の事例では、本人の気づかないところで海外からの輸入例と接触し、感染したことが疑われる事例が報告されているので注意が必要です(参考:[麻しん臨時情報](#))。麻しんの予防には2回の予防接種が必要です。定期予防接種(1回目:1歳以上2歳未満、2回目:5歳から7歳未満で小学校就学前1年間)で、麻しん・風しん混合ワクチン(MRワクチン)を確実に接種しましょう。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期のPCR検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

定点把握疾患 平成26年1月27日から平成26年2月23日まで
(平成26年第5週から平成26年第8週まで。ただし、性感染症については平成26年1月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成26年 週一月日対照表

第5週	1月27日～2月 2日
第6週	2月 3日～2月 9日
第7週	2月10日～2月16日
第8週	2月17日～2月23日

1 患者定点からの情報

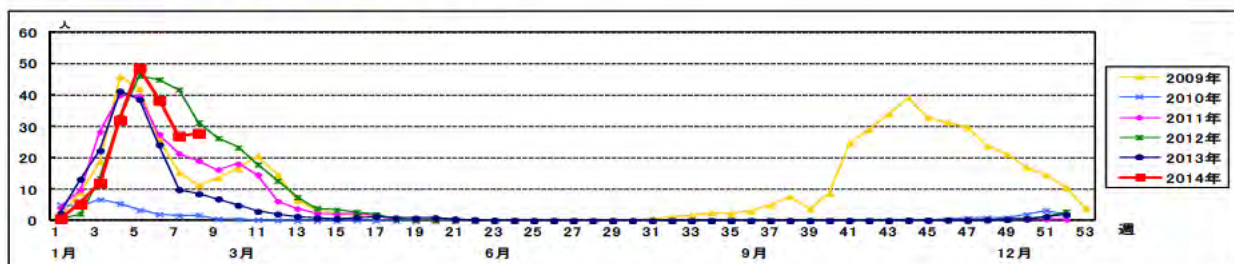
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告しま

す。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

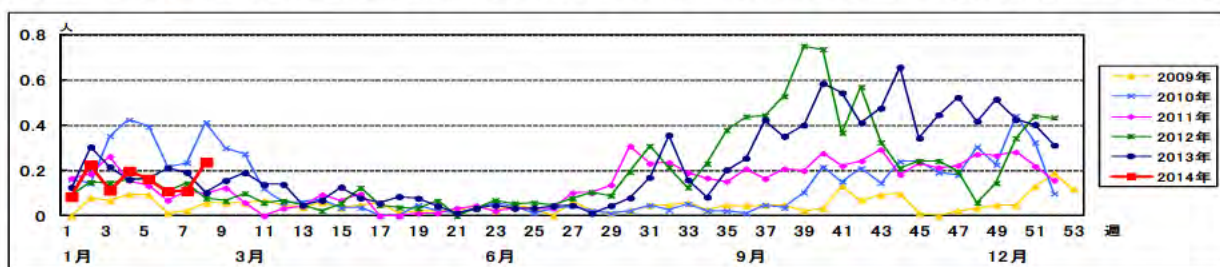
＜インフルエンザ＞市全体の定点あたりの患者報告数は、第5週の48.74をピークに減少を続けていましたが、第8週は27.90と、前週の27.05からやや上昇に転じました。迅速キット結果報告ではB型が増加しており、その影響と考えられます。衛生研究所で検出した結果では、B型(山形系統)が多く検出されています。また、衛生研究所でAH1pdm09型の61株を検査したところ、耐性ミックス株(275H/Y)(注:薬剤治療中または治療後の患者の検体からは、薬剤により耐性が誘導された株と通常の株がミックスされたもの(耐性ミックス株)が検出されることがあります。通常はそのウイルスが地域で流行することはありません。最近話題になっている耐性株とは異なります。)が3株見つっていますが、耐性株(275Y)は見つかりません。

◆[横浜市インフルエンザ臨時情報](#)(衛生研究所)

◆[インフルエンザ予防チラン](#)(横浜市)

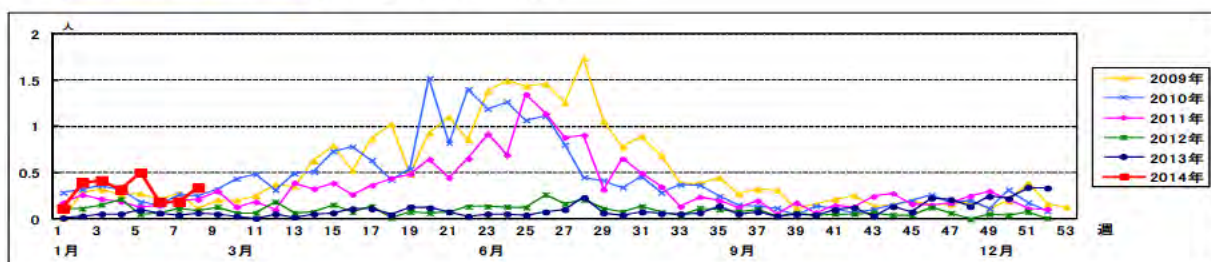


＜RSウイルス感染症＞第8週は定点あたり0.24と、例年に比べ時期としては報告数が多くなっています。



＜伝染性紅斑＞第8週は定点あたり0.34と、例年に比べ時期としては報告数が多くなっています。中区では2.00と、警報レベルとなっています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルスB19(以下B19)感染症の臨床像です。B19感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常(胎児水腫)および流産があります。

◆[伝染性紅斑について](#)(国立感染症研究所)



＜性感染症＞1月は、性器クラミジア感染症は男性が26件、女性が7件でした。性器ヘルペス感染症は男性が8件、女性が10件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が14件、女性が2件でした。

＜基幹定点週報＞マイコプラズマ肺炎は第5週0.00、第6週0.50、第7週0.25、第8週0.00と落ち着いています。感染性胃腸炎、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

＜基幹定点月報＞1月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点48件(鼻咽頭ぬぐい液46件、ふん便1件、嘔吐物1件)、内科定点22件(鼻咽頭ぬぐい液)、基幹定点4件(鼻咽頭ぬぐい液2件、髄液2件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ35人、上気道炎6人、気管支炎4人、胃腸炎2人、伝染性紅斑1人、内科定点はインフルエンザ17人、咽頭炎3人、気管支炎、発熱のみ各1人、基幹定点はインフルエンザ、無菌性髄膜炎各2人でした。

3月10日現在、小児科定点のインフルエンザ患者34人からインフルエンザウイルスが分離されており、内訳は、AH1pdm09型9人、AH3型1人、B型(山形系統)20人、B型(Victoria系統)4人でした。また、上気道炎患者2人と気管支炎患者3人からインフルエンザウイルスB型(山形系統)、上気道炎患者1人からインフルエンザウイルスB型(Victoria系統)が分離されています。内科定点では、インフルエンザ患者16人からインフルエンザウイルスが分離されており、内訳は、AH1pdm09型8人、AH3型1人、B型(山形系統)4人、B型(Victoria系統)3人でした。また、発熱のみの患者1人からインフルエンザウイルスAH1pdm09型が分離されています。基幹定点では、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスAH1pdm09型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上気道炎患者1人からヒトコロナウイルスOC43型、1人からヒトコロナウイルス229E型またはNL63型とパラインフルエンザウイルス2型、気管支炎患者1人からヒトコロナウイルス229E型またはNL63型、胃腸炎患者1人からノロウイルス、内科定点の上気道炎患者1人からアデノウイルスの遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

2月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から4件で、病原菌は検出されませんでした。

その他の感染症は小児科から5件、基幹定点から6件、その他が15件でした。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(2月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	2月			2014年1月～2月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌						1
サルモネラ					24	
不検出	0	4	0	0	8	4

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	2月			2014年1月～2月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌						
T6	1			4		
T12	2			2		
型別不能	1			1		
B群溶血性レンサ球菌			2			2
G群溶血性レンサ球菌						1
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		2			3	
<i>Legionella pneumophila</i>			1			1
インフルエンザ菌			1			2
肺炎球菌			11	1		33
その他		4			4	1
不検出	1	0	0	1	0	0

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】